

第 部門 中心市街地における土地利用と景観形成に関する研究

～神戸市旧居留地を対象として～

神戸市立工業高専専攻科 学生員 宮廻 壮太郎
 神戸市立工業高専 フェロー会員 橋本 渉一

1. 研究の背景

居留地は 1868 年の開港とともに設けられ、1899 年に返還されてからは日本人の居住が始まり神戸のビジネスの中心地として発展を続けてきた。阪神大震災により大きな被害を受けた後、旧居留地内における近代建築物の修復・保全工事が積極的に行われた。¹⁾それに伴いパリの旧市街地をモデルに『囲まれ型まちなみの形成』²⁾を実践しており、建造物の壁面線を歩道から 1m 後退させて整えるように景観形成基準で定められている。しかし、近年では壁面線を下げ、公開空地を設けてできたスペースに植樹や街灯・ベンチ等を設置したり、オープンカフェを展開したりすることによってにぎわいと潤いをもたらすことができるのではないかと考えられる。また、災害が起こった時に防災スペースとしても期待することができると考えられる。

本研究ではパリの旧市街地のように建造物の壁面線をそろえた街並みにするか、既定の建蔽率と容積率を考慮した上で公共空間を設けた街並みにするかを比較し、今後の都市計画に有効な資料を得ることを目的とする。

2. 研究対象地

神戸市中央区旧居留地仲町通り・京町筋

現状としては、現代建造物と近代建築物が混合して立ち並んでおり、壁面位置の統一もなされていない。したがって、オープンスペースになっているもの、ポルティコ³⁾になっているもの、壁面位置が下がっていないもの、の3つに分類することができる。また、オープンスペースの形、大きさ、街具の有無も各々違う。



写真1. ポルティコ



写真2. 公共空間

3. 研究方法

現地調査

- 1) 建物の歩道端～壁面位置の距離を計測する。
- 2) 建物の階層数を調べる。
- 3) 空間構成・着座人数の調査を行う。
 コンピュータソフトを用いて解析する。
 3DCAD を用いて再現する。

4. 調査結果

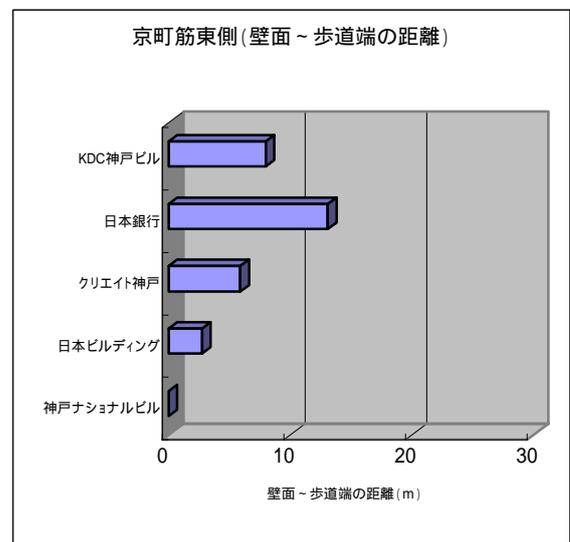


図1. 京町筋東側(壁面～歩道端の距離)

図1に示されるように、壁面線には非常にばらつきが見られた。壁面位置が近い建造物は、歩道からの余裕がないため、多少圧迫感が感じられるのに対し、公共空間が設けられている建造物は横の歩道を歩いていても圧迫感が感じられずゆとりがある。このため、建造物の壁面線を統一した場合、視覚的にも人の心理的にも影響は大きいと考えられる。



写真3. 壁面が近い例



写真4. 公共空間がある例

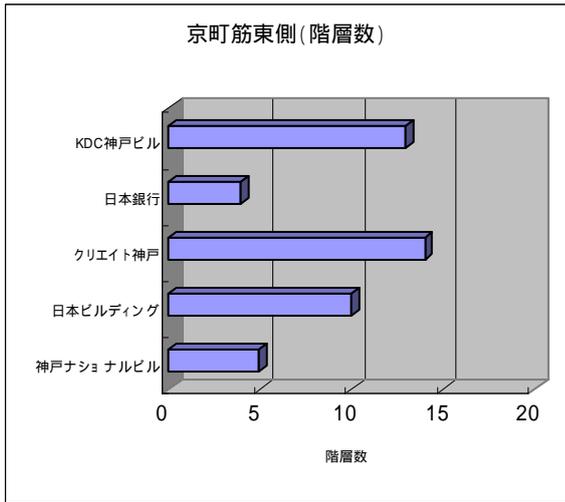


図2. 京町筋東側(階層数)

図2に示されるように、ビルの階層数もばらつきがあることがわかる。壁面線をそろえパリの旧市街地のように囲まれ型まちなみを形成するためには、仲町通りに現代建造物と近代建築物が混在していることが問題となってくるので急には困難だと考えられる。

表1. 仲町通り北側の空間構成

| ビル名(仲町通り北側) | スペース (ポルティコ以外) | ポルティコ | ベンチ (代用物含む) | 樹木 花壇 | 街灯 証明 | 案内板 |
|-------------|-------------------|-------|----------------|----------|----------|-----|
| 三菱信託銀行 | | × | × | | × | |
| 大丸神戸店 | × | | | | × | × |
| 38番館 | × | × | × | × | × | × |
| 東神ビル | × | × | × | × | × | × |
| 45thビル | | × | × | × | × | × |
| 三井住友銀行 | | × | × | | × | |
| 三宮電電ビル | × | × | × | × | × | × |
| ホテルヴィアマール | | × | × | | | × |
| クリエイト神戸 | | | × | × | | |
| 三共生興スカイビル | × | × | × | | × | × |
| 旧郵便局跡 | | × | × | × | × | × |
| 神戸ポート郵便局 | | × | | | × | |

表1に示されるように通り沿いの建築物、建造物によって造りが全然違うことがわかり、それぞれの特性が見えてくると考えられる。これを把握することによって人の滞留効果を上げることが可能であると考えられる。



写真5. オープンカフェ



写真6. 植樹と案内板



写真7. 現在の壁面位置



写真8. セットバック後

写真5をフォトショップによってセットバックを行ったものが写真6となるが、壁面位置が下がることによって歩行者にゆとりが感じられるが、近代建築のセットバックは実際困難であると考えられる。このことから現代建築物とのバランスがとても重要になると考えられる。

また、このできたスペースをうまく使うことによって防災としての機能も期待することができると考えられる。

5. まとめ

神戸市のガイドラインによると旧居留地は囲まれ型まちなみを推奨しているが、急に整えることは困難だと考えられる。その理由としては現代建造物と近代建築物が混在していて、神戸市としては近代建築物が歴史的にも貴重な為、残していく方針だからである。



写真9. 近代建築物



写真10. 現代建造物

参考文献

- 1) 旧居留地連絡協議会：神戸旧居留地，1999.7.17.
- 2) 旧居留地連絡協議会：神戸居留地/都市づくりガイドライン,1997
- 3) http://www.gairo.net/pages/Bol/Bol_01_054.htm
↓